

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 松永 直道

論 文 題 目

行動問題を有する児童におけるバランス機能の低下

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	飯高 哲也
	名古屋大学准教授	李 佐知子
	名古屋大学教授	杉浦 英志

## 論文審査の結果の要旨

行動問題は、児童における最も顕著な健康問題の一つであり、思春期前の児童では男女比 2:1 で 5~10%が罹患する。児童の行動問題は、内在化または外在化問題として特徴づけられ、最終的には生活の質の低下と二次的な社会的障害の原因となることがある。近年、行動問題を有する児童は、運動能力が低下するリスクが高いことが明らかになってきている。

一方で、バランス機能は、日常活動を行う上で重要であり、体性感覚を含む中枢神経と関係がある。しかし、この集団におけるバランス機能の特徴や行動特性との関連は明らかになっていない。

本研究では、6~10歳の児童 209名（行動問題群：38名、非行動問題群：171名）を対象とし、子どもや青年のネガティブおよびポジティブな行動特性を評価するためのスクリーニングツールとして広く用いられている Strength and Difficulties Questionnaire (SDQ)を用いて、行動問題とバランス機能との関連性を明らかにした。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。




1. 行動問題を有する児童では、片脚立位時間と 2ステップテストが有意に低値を示し、動的小よび静的バランス機能が低下していることが示唆された。
2. 対象者全体において、片脚立位時間と SDQ の合計得点である総合的困難さと下位尺度である情緒の問題、多動/不注意、仲間関係の問題と有意な相関関係を示した。
3. 行動問題を有する児童はバランス機能が低下しており、それによって不安定になるリスクが高まっている。

このことから、行動問題を有する児童のバランス機能について配慮した対応が必要であることが示唆された。

本研究の成果は Brain Sciences (Impact factor: 3.33) に掲載された。

以上の理由により、本研究は博士（リハビリテーション療法学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	松永 直道
試験担当者	主査	名古屋大学教授	名古屋大学准教授	名古屋大学教授
	飯高 哲也		李 佐知子	 杉浦 英志 
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. SDQの得点分布の正規性について</li> <li>2. SDQとバランス機能の相関に関する因果関係について</li> <li>3. 脳神経発達と本研究結果の関連について</li> <li>4. 各バランス機能検査の臨床的意味について</li> <li>5. 行動問題の定義、および日本の現状について</li> <li>6. 機能的な能力としての5回椅子立ち上がりテストの信頼性および妥当性について</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、リハビリテーション療法学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				